

古域

第 39 号

＝発行者＝
茨城県立江戸崎総合高等学校
同窓会広報委員会
TEL 029-892-2103
＝印刷所＝
倉沢印刷株式会社

ごあいさつ



同窓会長
山岡 恒 夫
(昭和43年度卒)

会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃からの、皆様方の同窓会に對しましてのご協力に心から感謝申し上げます。

江戸崎総合高等学校は、輝かしい歩みを続けております。本年度も茨城大学へ進学者がで、同窓会給付型奨学金を贈ることが出来ました。

部活動も素晴らしい足跡を残しました。農業クラブをはじめとして馬術部、バスケットボール部などが、全国大会県大会で活躍しました。

十二月に熊本県菊池市で実施された「第七回全国農業高校お米甲子園」において、江

戸崎総合高校で栽培したコシヒカリが特別優秀賞を獲得しました。

同窓会では、二つの大きな事業がありました。

十一月十九日には、新しくできた稲敷市役所敷地の正面に、江戸崎西高等学校跡地記念碑を建立しその除幕式を行いました。

十二月十五日には、江戸崎総合高等学校同窓会名簿(統合十周年記念版)を発行しました。この名簿は、江戸崎高等学校、江戸崎西高等学校、江戸崎総合高等学校の卒業生二万五千七百三十九名(物故者含む)を掲載した、三校統合後、初めての名簿です。

同窓会名簿は、同窓会を開く時、あるいは普段でも会員の活動状況や恩師の消息を知る上で、欠かすことの出来ないものであります。どうかこの名簿を最大限に活用されまして、旧交を温め会員間の絆を深めるだけでなく、自己啓

発や仕事にも役立て、利用価値を高めていただければと、願っております。

平成二十九年元旦には鹿島アントラーズが天皇杯優勝。その後も恩田陸さんの直木賞受賞。稀勢の里の初優勝、第七十二代横綱昇進(第七代横綱には稲敷市阿波崎出身の稲妻雷五郎がいる)。

二月二十六日には、圏央道の県内全線開通と、茨城県内では慶事が続いております。

新年の挨拶によく使われる歌に、「新しい年の初めの初春の 今日降る雪の いや重(し)け吉事(よ)ごと」があります。万葉集の最後の歌であると同時に、編者・大伴家持最後の歌とも言われております。「新年の初春の今日、いま降っている雪のように、もつと積もれ、良き事よ」という意味の歌であり、年の初めの躍動感に溢れ、「どうか今年も良いことがたくさんありますように」という祈りが伝わってくるようです。

万葉の昔から、節目の時に、私たちは決意を新たにしておりました。

会員の皆様方にも、母校にも本年度も良いことがたくさんありますようお願いしましてご挨拶いたします。

統合十周年記念版 会員名簿発行

前号の会報誌でもお知らせしました通り、統合十周年記念版会員名簿が完成しました。予約されました会員の皆様へ平成二十八年十二月十九日より順次発送を致しました。今回の名簿発行にご協力頂きました皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



『地域と共に歩む』


 校長 羽生 昭男
(昭和52年度卒)

同窓会の皆様には日頃より本校の教育活動に多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。茨城県立江戸崎高等学校、茨城県立江戸崎西高等学校が統合され、平成二十六年十一月十五日(土)創立十周年記念式典を挙行し、早十二年を迎えました。今年度は、茨城県立江戸崎総合高等学校が統合されたこと、統合の証に同窓会名簿を刊行できました。誠に喜ばしい限りでございます。

現在、一年次で共通の必修科目を学び、二年次以降、生徒の適性や希望に応じて、人文科学系、自然科学系、グリーンテクノ系、メカニカルテクノ系、福祉系の五系列で、多様且つ専門的な知識を習得することになります。本校の伝統である農業系列では、農業従事者の高齢化や新規就農者の減少が日本における農業の現状ですが、農作物の栽培や

販売を通して、地域の皆様と関わりが持てることは生徒達にとっても大変貴重な体験であり、今後地元貢献するための第一歩になるよう期待いたします。また、部活動では特に馬術部、弓道部、硬式野球部が県内外の各種の大会で好成績を収め、吹奏楽部は地域を中心に演奏の機会を頂いております。今年度は、バスケットボール部男子が県南地区新人戦を勝ち抜き、県大会出場が決まりました。伝統の農業教育では、「全国農業高等学校お米甲子園」で本校のコシヒカリが全国の農業高校(二百校応募)の中で、十校にランキング入りを果たすことができ、十二月四日(日)熊本県菊池市で特別優良賞を受賞しております。進学では、茨城大学理学部生物科学コースへ一名が推薦入試で合格しております。

最後に、会員の皆様方には本校が稲敷郡市に存在する唯一の県立高等学校として、地域に根ざし、共に歩み、伝統や歴史を踏まえ更なる発展がみられますよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。



心の翼を休めて


 副会長 松本 博志
江戸崎西高等学校
(昭和53年度卒)

この度、多くの皆様のご理解と、ご協力を頂きまして、江戸崎西高等学校跡地記念碑を建立する事が出来ました。心より感謝を申し上げます。

また除幕式には、江戸崎総合高校の吹奏楽部の皆さんに西高の校歌を演奏して頂きました。西高最後の卒業式以来、十年ぶりに当地に校歌が響きました。何とも言えない感動がこみ上げたひと時でした。私たち西高生は、校章の由来にあるように、大空高く羽



ばだけ、飛翔せよ、本校の名を天下に伝えよと、三対の心の翼を与えられました。他の追従を許さず速く飛ぶ者、遙か遠方の地まで飛んだ者もある。巣立った地を見守り常に巡回する者、雛を護るため羽を広げる者も大勢います。期せずして、本年は西年であります。西高卒業生は勿論のこと、そうでない皆様も一度この記念碑を訪れて下さい。そして、心の翼を休めていただければと思います。

平成二十九年の大空を元気に羽ばたけますように。



創設期の思い出

同窓会会報誌編集事務局から寄稿の依頼があり、江戸崎西高特集を考えているのと、何を書いたらよいものか、迷いつつペンをとりました。創設期の二年目に赴任しましたが、当時はグラウンドはなく、体育館も建設中で授業は空き教室での卓球が、屋上でのローラースケート、時にはグラウンドから二キロ離れた場所にあった、大森工業高校のグラウンドを借用しての授業を一年間経験しました。開校三年目に全ての施設が整い、充実した授業が展開されるとともに、勉学や部活動の成果も上がり、充実した日々を過ごさせて頂きました。十年間の勤務で五人の校長と多くの先生方、三千名を超える生徒との出会いと思いが、あり懐かしき思い出されます。西高には三度赴任し通算十七年の勤務になりましたが、その間、先生方や生徒から多くを学びとり、教師生活の中でも最も多くの経験と思いが残せたと思っております。


 与 清水 昂
(昭和36年度卒)

平成二十八年十一月十九日、江戸崎西高等学校の跡地記念碑の除幕式に立ち会うことが出来て、誠に光栄であり、心からのお祝いを申し上げます。借越ではございますが、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

今回、江戸崎総合高等学校同窓会の有志の皆様方の発起により、また稲敷市のご理解のもとに、興野台のこの場所に、記念碑が建立されたこと



川崎 樹
江戸崎西高等学校
(昭和51年度卒)

江戸崎西高等学校
跡地記念碑の除幕式に
参加して



は、江戸崎西高等学校を卒業した私にとりまして大変な喜びであり、感慨深いものがございます。

今年は、私が卒業した小学校も廃校となり、少子化の中では、致し方ないのかなと、さびしい思いがありました。江戸崎西高等学校の跡地記念碑の話聞いて、少し心が癒されたものでした。

これから先、多くの卒業生達がこの興野台を訪れ、記念碑を見て当時のことを思い出していたら、心から願い申し上げます。また、今回記念碑建立にご尽力されました、有志の皆様方に感謝の意を表し、お祝いの言葉といたします。



当時の様子



糸賀 馨
江戸崎西高等学校
(昭和55年度卒)

私は、江戸崎西高等学校の第八期生にあたります。私たちの時はちょうど美浦トレーニングセンターの開設の時期で千葉・新潟・福島など多くの仲間が各クラスにいました。そして、クラスも七クラス三百十五名という大所帯でした。そのため、江高・西高両校を合わせる、全校生徒は、千三百名を超えていたと思います。

当時の思い出としては、マラソン大会がそれぞれの学校であり、江高生達は西高前を走って行くコースになっていました。西高は、学校前から真っ直ぐ島田の交差点に向かうコースでした。

また、夏の甲子園県大会では、同じ日の同じ球場で試合が前後した時があり、両校の応援団がそれぞれエールの交換をするということが行われていました。

両校は、歴史上だけではな

く、良い意味でライバルであり仲間であったと思います。



高校時代を振り返って



東 郷 知 子
江戸崎西高等学校
(昭和56年度卒)

早いもので、江戸崎西高等学校を卒業してから三十五年の歳月が過ぎました。

今、当時を振り返ると、三年間という短い時間の中で、多くの友人、先生に出会い、笑って、泣いて、悩んだ青春そのもののように感じます。

学校行事では、男子十キロ、女子五キロのマラソン大会が



あり、走ったり歩いたりして何とか完走しました。

修学旅行では、広島、京都へ行き、文化祭では仮装行列をした事を覚えています。

今、私は地元の和菓子店に嫁ぎ、家族みんなでお店を経営しております。

また、主人も縁があり、江戸崎総合高等学校の選択授業の一つを任され、週に一度、指導の為に通っております。

時代の流れで、江戸崎西高等学校自体はなくなっていました。しかし、江戸崎総合高等学校として、今も地元の多くの人達に支えられています。

一般公開のある文化祭では、農産物販売が大変人気で毎回長蛇の列が出来るほどです。

歴史ある高校ですから、これからどんどんステップアップしていった下さい。

江戸崎西高等学校

江戸崎西高等学校校歌

詩 川崎 吉男
曲 吉田 道子

一望千里 常陸野に

その名も古き 興野台

礎堅く 築きたる

我等が学舎 江戸崎西校

沃野の南 利根川の

流れつきせぬ 気概もて

若人の意気 天翔ける

我等が学舎 江戸崎西校

霞ヶ浦の さざなみも

紫煙る 筑波峰も

清き操を はぐくみて

我等が学舎 江戸崎西校



思い出の学び舎



緊張した入学式



鼎 嗚呼！青春の



修学旅行



中庭「飛翔の池」



跡地記念碑（稲敷市庁舎敷地内） 平成28年11月19日建立



勝利を信じて！



校内だより

「チャレンジ」

渉外部長 中村 辰雄

今年度、渉外部長を担当させて頂いております。日頃より在校生の教育活動に際し多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、私が大切にしている言葉に「チャレンジ」があります。渉外部長は初めてで勉強することも多く、貴重な経験をさせて頂いています。

新しいことにチャレンジし、その中で様々なことを学び経験するのに、年齢など関係ありません。私が所属している合唱団には、もう九十歳を超えた方もいます。

本人にとつては毎回の練習参加が精一杯なのかもしれませんが、歌える喜びをかみしめながら委嘱初演曲を暗譜で歌おうとする姿には、年齢を感じさせない若さがあります。八十歳の方々が発起人となつて新団体が立ち上がったケースもあります。新しいことにチャレンジしている方々は、本当に輝いています。私もそ

んな人でありたいです。最後になりましたが、今後とも在校生への温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

歴史をリレーする

生徒指導部長 石塚 武志

先日、校舎の屋上から稲敷の風景を眺める機会がありました。稲を刈り取った後の田んぼ、水面の輝く霞ヶ浦、紅葉の山々。これほどの美しい自然の中にある学校も県内では稀だろうと感嘆しました。

このような恵まれた環境で三年間生活した生徒たちは、やがて地域を支える柱の存在として、卒業生の皆様の後を継いでいきます。各方面でご活躍の皆様と、母校の名に恥じない人材育成のために、日々指導に当たっているところであります。世界では科学技術の発展に伴い、人と対面で話さなくても容易に会話をしたり、物のやり取りが出来るようになりました。

しかし、本校生徒には、人と人との触れ合いや直接言葉

を交わすことの大切さを伝えていきたいと思っています。人と自然の温かさの中で育つた生徒こそが、本校の名誉ある歴史をリレーするにふさわしいと確信しております。

進路状況報告

進路指導部長 森田 繁

平成二十八年度の進路概況をお知らせします。就職については、十一月末において八十七名の生徒が内定をいただいております。稲敷市をはじめとして、牛久市、竜ヶ崎、阿見町、美浦村など実に九割を超える生徒が地元企業へ巣立つことになりました。

生徒の地元志向は例年見られる傾向であり、本校の卒業生は地域産業の担い手として貢献しているといえます。

一方、進学において特筆すべきは茨城大学合格者を一名輩出できたことです。

今年度は理学部合格で昨年度の工学部に続き二年連続となります。本校は総合学科ということもあり生徒の進路希望は多岐にわたります。

一人ひとりの進路希望が実現できる規律ある学校」を基本的な考え方に据え指導にあたっております。様々な方々

の関与が生徒の成長を大きく促し、高い教育力につながるものと考えていますので、今後とも同窓会員皆様のご協力をお願いいたします。

進路状況

平成二十八年度

主な進学先

茨城大学
流通経済大学
県立農業大学校
つくば国際大学
川村学園女子大学
千葉科学大学
県立鹿島産業技術専門学院
江戸川大学
つくば国際短期大学
宮本看護専門学校
筑波研究学園専門学校
アール医療福祉専門学校
筑波保育医療専門学校
パリ総合美容専門学校
茨城理容美容専門学校
成田国際福祉専門学校
太田自動車大学校
山野美容専門学校
日本農業実践学園専門学校
東京電子専門学校
東放学園専門学校
アール情報ビジネス専門学校
つくばビジネスカレッジ専門学校
つくば栄養医療調理製菓専門学校
他九校

主な就職先

自衛官候補生
江戸崎カントリー倶楽部
新日鐵住金
日本食研
SHOEI 茨城工場
ネスレ日本
東洋シャッター
王子コンテナ・霞ヶ浦工場
フジシール
城東テクノ
美浦ゴルフ倶楽部
龍ヶ崎フードワークス
ヨークベニマル
阿見ゴルフ倶楽部
つくばセントラル病院
水郷荘
東洋トラフィックスサービス
ワールドエンタプライズ
いなしきの郷
博慈園
ヒューテックノオリン
筑波工業
吉野工業所
他三十六社

輝けグリーンテクノ系列

農場長 石崎 理有

本校グリーンテクノ系列は江戸崎高校百年の歴史で培った農業教育を引き継ぐ系列です。現在の人数は二・三年次

ークラスずつで生徒数五十九名、教職員十一名です。農業関連高校の中では小規模ですが、生徒と教員の近さを活かした教育を展開しています。

○地域交流

活動の場を校外に広げ、ショッピングセンター「パンブ」駐車場「花咲畑」の整備や、稲敷警察署、稲敷市役所、中学校への花プランター配布を行いました。イベントでは稲敷市あげもち大会、稲敷直売所十周年、稲敷市収穫祭等で生産物を販売しました。

校内では幼稚園生の芋掘りや、小学生のクッキー作り体験を企画・実施しました。

○生徒の自主活動

授業外でさらに学習を深めたい生徒に対し、土浦キララ祭りのコンテスト出品や、ピザ窯作り等を支援しました。

○全国での活躍

今年度、本校の実習田で栽培したお米が「第七回全国農業高校お米甲子園」にて特別優秀賞に選ばれました。

このように小規模ながらも「地域で活躍する人材」の育成に力を入れています。

同窓会の皆様には、今後も本校農業クラブ、農業教育の推進にご支援・ご指導よろしくお願い致します。

各年次だより

一年を振り返って

一年次主任 茂木 孝允

あどけない表情の生徒たちを迎えた入学式からあつという間に月日は経ち、その生徒たちも今ではすっかり高校生らしくなりました。

中学校から心機一転し、毎日元気に登校して勉学に励むことが出来るようになった生徒も多く、生徒の努力を保護者と地域の方々が支えて下さってこそ作られた本校の良さであると感じています。

今年度は、震度七を記録した熊本の大地震や台風による東北地方の被害、また福岡市の道路陥没事故や東京都豊洲市場の諸問題など、自然の脅威だけでなく施設や設備においての危機管理の重要性を、まざまざと実感させられる一年となりました。そのような社会で生きる力を、生徒たちにいかに身に付けさせることができるか、我々教職員も試行錯誤しながら、全力で生徒たちの指導やサポートを行っております。

祈念いたします。

新たな取り組み

二年次主任 石澤 真

二年次に進級して九ヶ月が経とうとしております。これまで頭髪や服装等の生徒指導が中心となっておりましたが、最近では精神的に成長する姿が多く見られ、少しずつではありますが、来年度の進路活動に向けて地盤が整いつつあります。

今年度より県内の高校二年生に道徳の授業「道徳プラス」が新たに導入され、ホームルーム活動の時間で年間十時間の予定で実施しています。

「道徳プラス」は討議型やモラルスキルトレーニングなど協働型の道徳を学ぶことで、生徒達の主体的で能動的な学習による「考え、議論する道徳」の授業への転換を図るものです。本校は今年度、道徳プラス推進校に指定され、十一月には県内の高等学校や近隣中学校の先生方、保護者の方を対象に公開授業を行いました。二年間にわたる道徳教育を通して、コミュニケーション能力を向上させ、円滑な人間関係を構築できる、そんな魅力ある人材の育成を図っていると

ところであります。最後に、同窓会の皆様の益々のご活躍を祈念するとともに、今後もご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

地域で育む

三年次主任 柳澤 光昭

年次主任として迎えた入学式から、はや二年が経ちます。平成二十八年度も三年生にとっては、登校するのは残り二十数日となりました。

思い返せば、これまで毎日毎日、本当に色々なことがありました。生徒達と過ごした濃密な日々は生徒忘れることがないと思います。

よくよく考えれば、何かあったその度に、保護者の皆様、地域の方々、そして同窓会の方々のサポートや支えが常にそこにはありました。

皆様方のご理解ご協力あつてこそ、我々もここまで来ることが出来たと、心より感謝申し上げます。果立っていく生徒達が、また新たな江総の熱心な協力者になってくれることを願いつつご挨拶の言葉と致します。



平成二十九年 事業計画(案) ▼

事業名	実施予定
校内幹事会	随時
本部役員会 (本年度事業について)	五月下旬
本部役員会	七月下旬
本部役員会	八月中旬
研修会	九月下旬
本部役員会	十月下旬
本部役員会 (会報「古城」について)	十二月上旬
会報誌「古城」編集委員会	十二月中旬
会報誌「古城」編集委員会	一月中旬
会報誌「古城」編集委員会	二月上旬
本部役員会 (代議員総会について)	二月上旬
同窓会入会式	二月下旬
卒業記念品贈呈	二月下旬
会報誌「古城」第四十号発行	二月下旬
校内幹事会・本部役員会	三月上旬
本部役員会・会計監査	三月中旬
第百十二回同窓会代議員総会	三月下旬

支部長

江 戸 崎 朝 日 水 明 高 田 成 夫 沼 里 雄 一 鳩 崎 邦 夫 木 中 原 勝 美 安 原 輝 政 君 日 原 政 平 朝 日 水 明 舟 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 阿 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 牛 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 柴 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 太 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 根 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 大 須 賀 勝 美 伊 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 十 余 島 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 本 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 阿 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 古 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 浮 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 生 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 長 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 源 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 金 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 八 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 大 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 竜 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 土 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明 水 崎 久 見 島 日 原 政 平 朝 日 水 明

本部役員



会 長 副 会 長 監 事 (校長) 顧 問 事 務 局 菱 根 柱 水 鳥 大 飯 中 岡 根 羽 及 松 松 德 岡 山 山 木 本 井 野 羽 居 塚 澤 田 本 生 川 田 本 好 武 恒 明 恵 裕 良 育 弘 昭 和 由 博 雄 志 廣 夫 美 梢 太 史 勝 行 男 繁 守 一 男 浩 雄 廣 夫

広報委員



編集後記

平成二十八年度は、二つの大きな事業がありました。一つは統合十周年記念版同窓会員名簿の発行です。会員の皆様の「つながり」を確認できるツールの一つとなりました。もう一つは、江戸崎西高等学校跡地記念碑建立です。かつての西高跡地は今は稲敷市庁舎となり、そこに建立された跡地記念碑は、西高同窓生が青春時代の「つながり」を思い出させる唯一の証となりました。皆様のご協力ありがとうございました。